

# 手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉  
 発行2016年1月1日 〈毎月1日発行〉  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 e-メールshiga.minken@gmail.com  
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所



穂高の山々

桂田良高撮影

新年あけましておめでとございませう。

二〇一五年九月一九日未明、連日連夜にわたる、国会を幾重にも包囲する市民・学生・学者・母親・労働者などの怒涛の抗議の声を嘲り笑うように、「戦争法」(安全保障関連法)が安倍政権によって成立させられました。

私たちは、この日を起点に、決してあきらめることなく、共同と連帯の力で、「戦争法」を廃棄し、立憲主義と民主主義を取り戻すことを誓い合いました。私たちは、この日を決して忘れることはありません。

滋賀民研も、平和と民主主義、子どもと教育をまもるべく、会員のみなさまとともに奮闘したいと考えています。本年もよろしくお願いたします。

2016年元旦

滋賀県民主教育研究所  
 理事長 木全清博  
 所長 黒田吉孝  
 事務局員一同

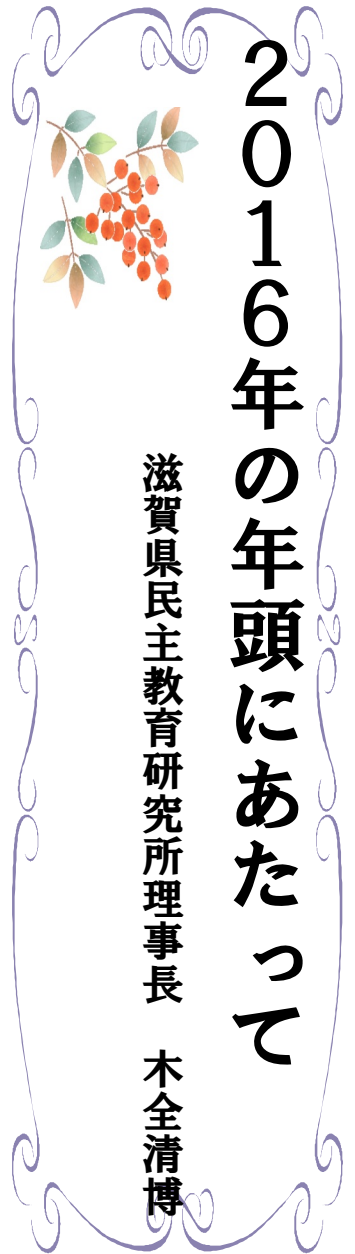
## 《 今月の紙面 》

- ・新年のご挨拶……………P1
- ・新年のご挨拶/木全清博・P2
- ・《新春座談会—若者に聞く》  
活動の源は何か—新安保法案から18歳選挙権まで/  
事務局まとめ……………P3~10
- ・地域民主教育全国交流研究集会(於近江八幡)の報告—自分もスタンダードに近づいていたことに気づいた—/本田清春……………P11~12

《 2016年1月号 No. 331 》

# 2016年の年頭に当たって

滋賀県民主教育研究所理事長 木全清博



2015年の新しい年を迎えるにあたり、ある青年の言葉を聞こう。「人間は皆ひとりで生きるし

そのSEALDsの中心メンバーの一人である。引用したのは、奥田さんの言葉だ。

に手を取り合って努力しよう、というものである。奥田さんのような学生や青年が、自分たちの立場を自覚し、行動していく姿を

かなくて孤独だけど、ひとりじゃ生きられない。そんな自分やあなたが個人として認められ、一緒に生きることを支える仕組みが、民主主義じゃないですか」（朝日新聞2015年12月19日 フロントランナー）。

国民の多数の反対意見や危惧の念がある中で、一連の安保法案を自民党と公明党は強行採決してしまった。立憲主義を確立するため努力してきた近代日本の歴史を、いとも簡単に否定する道をとってしまったのである。立憲主義の否定は、新たな「戦前」社会になっ

ていかねばならない。戦後70年の節目の年は、戦前理念の回帰をめざす一部の政治家と、戦後理念を自分のものから広げたいとする若者たち、それぞれの主張と行動がはつきりとしてきた。奥田さんは、参議院特別委員会の中央公聴会に呼ばれて話すときに、

民主主義について、これほど端的に核心をつく言葉を発する若者はそういない。戦後70年の昨年2015年9月19日、安保法案が国会で強行採決された。その安保法案に反対した学生たちの集まりが、SEALDs（シールズ）だった。

SEALDsの行動は、戦後民主主義の根幹をなす個人の自由と自治を尊重する。個人が互いに尊重し合える社会のしくみを作るに

は、ひとり一人は孤独だが、一緒に

奥田愛基（おくだあき）さんは、

は、ひとり一人は孤独だが、一緒に

は、ひとり一人は孤独だが、一緒に

次のように述べた。議場で寝ている国会議員に注意を促したあと、「何もない、誰も知らないところから、ひとりで考え、やってきた。だから、あなたたちも個人として決断を」と。2016年は、ここからスタートしたい。

（きまたきよひろ）

新年号は試みに  
本文のポイントを大きくし、読みやすくしてみました。字が大きくなるとページ数が増えますが、皆さんのご意見を頂き、好評ならばこのスタイルで今後の刊行を考えたいと思っています。

「手をつなぐ」編集部

